

## 外部評価（平成 23 年度）

戦略的大学連携支援プログラムの外部評価体制として、他大学や関係団体等の有識者をメンバーとする「外部評価委員会」を設置している。平成 23 年度の活動実績と成果に対して、運営委員会・各ワーキンググループによる自己点検・評価結果をもとに、平成 24 年 1 月 28 日（土）外部評価委員会を実施した。

### 評価結果

平成 23 年度の取組活動報告や質疑応答の内容に基づき、「評価表」の全 14 項目について 5 段階で評価を受けた。

#### ■ 評価表

【凡例】

(1) 取組みの実施状況

- 5：計画を上回り実施している、4：計画を十分に実施している、3：概ね計画どおりに実施している
- 2：計画の実施にやや遅れがある、1：計画の実施が不十分である

(2) 取組みによる成果

- 5：計画を上回る成果が得られている、4：計画どおりの成果が得られている、3：概ね成果が得られている
- 2：成果がほとんど得られていない、1：検討段階に留まり成果が得られていない（改善の余地がある）

評価項目	取組みの実施状況				取組みによる成果			
	外部評価委員 A	外部評価委員 B	外部評価委員 C	内部評価	外部評価委員 A	外部評価委員 B	外部評価委員 C	内部評価
<b>薬剤師レジデント（薬剤師レジデント運営委員会）</b>								
① 薬剤師レジデント教育	4	5	5	4	4	5	4	4
② 薬剤師レジデント海外研修	5	4	5	5	4	4	5	5
③ 薬剤師レジデントによる実務実習指導	5	4	5	5	4	4	4	5
<b>生涯研修（医療生涯研修支援プログラムワーキンググループ）</b>								
④ 第 4 回神戸薬科大学シンポジウム	5	5	5	5	5	5	5	5
⑤ 第 2・3 回 Student CASP Workshop in Kobe	5	5	5	5	5	5	4	5
<b>FD・SD（FD・SD 検討ワーキンググループ）</b>								
⑥ FD・SD 研修	4	4	5	4	4	4	4	4
<b>授業科目共同開発（共同研究・教育開発システム検討ワーキンググループ）</b>								
⑦ フィジカルアセスメント実習	5	4	5	5	5	4	5	5
⑧ 講義収録配信システム	4	4	5	4	4	4	4	4
⑨ e-ラーニングシステム	4	4	5	4	4	4	4	4
⑩ e-ラーニングシステム 英語教材の開発	5	4	5	5	5	4	5	5
⑪ 博士課程科目の開発	4	5	4	4	4	5	3	4
⑫ 共同研究の推進	5	4	5	5	5	4	5	5
<b>全体</b>								
⑬ 連携取組共同ホームページによる情報発信	5	4	5	5	5	4	5	5
⑭ ニュースレターならびに活動報告書の発行と連携取組報告会	4	4	5	4	4	4	4	4

## ■ 概評

### 外部評価委員 B

3 年間の本連携事業は薬学分野と医学分野がしっかりと取り組んでおり、その目的遂行のため構築した委員会とワーキンググループがうまく機能しそれぞれの分野で一定の成果を挙げることができたと考ええる。

薬剤師レジデント制度における連携は着実な成果を挙げている。平成 24 年度のレジデントとして 6 年制薬学部卒の薬剤師（予定者）を選んでいることは新しい薬学教育に一石を投ずるものと考えられる。これと関連して他の医療関連施設における薬剤師レジデントとの交流が計画されている。本プロジェクトにおける薬剤師レジデント制度の特色をより鮮明にしていきたい。また薬剤師レジデント海外研修においても継続的に成果を挙げてきている。今後日本の薬剤師レジデント養成にどう反映させていくかを検討していきたい。

医療技術の進歩や新しい医薬品の開発などを背景として新しい医療体制の確立が求められている。チーム医療の中での薬剤師の役割はますます大きくなってきており薬剤師の生涯学習の充実が必須である。神戸薬大は従来からその分野における指導的役割を果たしてきているが今回のプロジェクトにおける一つの柱として薬剤師の能力向上に弾みをつける生涯学習の企画を実施してきたことを高く評価したい。

FD、SD に関する検討に関して薬学・医学に必要な能力向上に取り組む姿勢がみられる。医学と薬学が連携したプロジェクトを利用し、質の高い学生教育の遂行に必要な能力向上に向けた努力を続けていきたい。

医学、薬学の連携プロジェクトへの文部科学省による助成は今年 3 月で終了するが、これまでに得られた成果をもとにより充実した連携事業を継続、発展させていきたい。またこの成果を基礎として神戸薬科大学のさらには日本の薬学教育の充実を図り、患者を中心とする新しいチーム医療の中核となるべき薬剤師の養成に邁進していきたい。その中で今回のプロジェクトの成果を如何なく発揮していただくことを念願するものである。

### 外部評価委員 C

多くの項目に積極的に取り組み、短い期間内に多くの成果をあげている。

中でも薬剤師レジデント制度全般と海外研修では、大変困難を伴うにもかかわらず十分な成果をあげており、今後のモデルとなる取り組み、成果と考えられる。

他にも英語教材開発とその利用についても高いレベルの教材作成と利用について工夫が見られる。

共同研究や教育開発システムでも 6 年制移行に伴う将来像も示されており、今後の発展に期待が持てる。

運営の基本である私立・国立大学間の連携は、病院を介して共通の教育理念で運営され、チーム医療の推進にも役立つものと評価される。

平成 24 年 月 日

大学名: 神戸薬科大学

取組名称: 医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた私立・国立大学間の連携

氏名:

## 評価表

### 1. 事業の進捗状況

【凡例】

(1) 取組の実施状況

5: 計画を上回り実施している、4: 計画を十分に実施している、3: 概ね計画どおりに実施している、2: 計画の実施にやや遅れがある、1: 計画の実施が不十分である

(2) 取組による成果

5: 計画を上回る成果が得られている、4: 計画どおりの成果が得られている、3: 概ね成果が得られている、2: 成果がほとんど得られていない、

1: 検討段階に留まり成果が得られていない(改善の余地がある)

評価項目	評価記入欄		内部評価 評定	
	取組の実施状況	取組による成果	取組の実施状況	取組による成果
<b>薬剤師レジデント(薬剤師レジデント運営委員会)</b>				
<b>①薬剤師レジデント教育</b>				
A. 薬剤師レジデント教育プログラム充実のための検討および新規採用(両大学) ・薬剤師レジデント4名へのヒアリングを実施(7月9日(土)) ・平成24年度薬剤師レジデントの選考(12月18日(日))	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	4	4
B. 研修報告会の開催及び修了認定(両大学) ・平成22年度に第1期生の研修報告会と修了認定を実施(平成23年2月2日(水)) ・平成23年度研修報告会にてレジデント4名の研修報告、および2年目薬剤師レジデントに対して修了認定を行う(2月1日(水)予定)	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	4	4
<b>②薬剤師レジデント海外研修</b>				
カリフォルニア大学サンフランシスコ校メディカルセンターにおける薬剤師レジデント海外研修の実施(両大学) ・薬剤師レジデント2名の海外研修を実施(8月22日(月)~25日(木))	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	5	5
<b>③薬剤師レジデントによる実務実習指導</b>				
薬剤師レジデントによる薬学部学生への実務実習指導(両大学) ・2年目薬剤師レジデントによる「実務実習事前教育」の指導補助の実施(10~11月) ・2年目薬剤師レジデントによる神戸大学医学部附属病院での実習指導(5~7月、9~11月、1~3月)	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	5	5
<b>生涯研修(医療生涯研修支援プログラムWG)</b>				
<b>④第4回神戸薬科大学シンポジウム</b>				
医療生涯研修支援プログラムの実施(両大学) ・「臨床思考能力を持った薬剤師育成に向けて」をテーマとしたシンポジウムの開催(7月24日(日)) ・アンケート結果(データ)	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	5	5

評価項目	評価記入欄		内部評価 評定	
	取組の実施状況	取組による成果	取組の実施状況	取組による成果
<b>生涯研修(医療生涯研修支援プログラムWG)</b>				
<b>⑤第2・3回Student CASP Workshop in Kobe</b> 医療生涯研修支援プログラムの実施(両大学) ・第2回Student CASP Workshop in Kobeの実施(6月26日(日)) ・第3回Student CASP Workshop in Kobeの実施(11月13日(日)) ・アンケート結果(データ)	5    4    3    2    1 	5    4    3    2    1 	5	5
<b>FD・SD(FD・SD検討WG)</b>				
<b>⑥FD・SD研修</b> A. 医薬品に関する危機管理合同研修の実施(両大学) ・危機管理合同研修「コミュニケーションとインフォームドコンセント」の実施(10月27日(木)) ・危機管理合同研修「医療の質と安全及び危険予知」の実施(11月24日(木)) B. ワークショップを取り入れた演習を行う研修プログラムの実施(両大学) ・ワークショップ研修「コミュニケーションの感触」の実施(2月9日(木)予定)	5    4    3    2    1 	5    4    3    2    1 	4	4
<b>授業科目共同開発(共同研究・教育開発システム検討WG)</b>				
<b>⑦フィジカルアセスメント実習</b> 実務実習に備えた臨床シミュレータを用いたフィジカルアセスメント実習の実施(神戸薬科大学) ・5年次生を対象にしたフィジカルアセスメント実習の実施(6月2日(木))	5    4    3    2    1 	5    4    3    2    1 	5	5
<b>⑧講義収録配信システム</b> 神戸大学「薬理学」講義収録及び神戸薬科大学修士課程講義収録とその運用(両大学) ・神戸大学医学部講義「薬理学」の収録(10月～1月) ・神戸薬科大学修士課程講義の収録(前後期)	5    4    3    2    1 	5    4    3    2    1 	4	4
<b>⑨e-ラーニングシステム</b> e-ラーニングシステムの具体的活用方法と遠隔教育システムの実現に向けた検討(両大学) ・授業やレポート、アンケート提出等による運用	5    4    3    2    1 	5    4    3    2    1 	4	4
<b>⑩e-ラーニングシステム 英語教材の開発</b> e-ラーニング用薬剤師向け英語教材「薬局での英会話」の開発(神戸薬科大学) ・「薬局での英会話」(初級編)の開発(10月) ・「薬局での英会話」(続編)の開発(2月末完成予定)	5    4    3    2    1 	5    4    3    2    1 	5	5

評価項目	評価記入欄		内部評価 評定	
	取組の実施状況	取組による成果	取組の実施状況	取組による成果
<b>授業科目共同開発(共同研究・教育開発システム検討WG)</b>				
⑪博士課程科目の開発 博士課程科目の共同開発(両大学)	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	4	4
⑫共同研究の推進 共焦点レーザースキャン顕微鏡及びルミノ・イメージアナライザを基盤とした学生への研究指導及び積極的な研究成果の公表を行っている(両大学)	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	5	5
<b>全体</b>				
⑬連携取組共同ホームページによる情報発信 連携事業の進捗状況や取組の成果等の情報を連携取組共同ホームページで広く公表する(両大学) ・行事案内、取組内容の紹介、情報発信 ・神戸大学との共同ホームページ作成 ・神戸大学ホームページから共同ホームページへリンク	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	5	5
⑭ニューズレターならびに活動報告書の発行と連携取組報告会 A. ニューズレターVol.4、Vol.5の発行による平成23年度成果の公表(両大学) ・Vol.4を発行(9月)し、669機関に発送 ・Vol.5を3月に発行予定  B. 自己点検・自己評価の実施および外部評価委員会による外部評価の実施と報告書作成(両大学) ・内部評価および外部評価の実施 ・最終年度活動報告書の発行(3月予定)  C. 連携取組報告会の開催(両大学) ・最終年度連携取組報告会の開催(1月28日(土))	5 4 3 2 1  -----	5 4 3 2 1  -----	4	4